



(第16号)2005年7月11日発行

あなたも裁判員!

裁判員制度について勉強してみませんか。

副理事長
永野 修



みなさんご存知のことと思いますが2004年5月28日に裁判員制度に関する法律が公布され、2009年5月までに裁判員制度がはじまり、市民が重大な刑事裁判の審議に参加することになります。20才以上の衆議院議員の選挙権を有する者の中から、翌年の裁判員候補者から抽選で選出され、裁判所ごとに裁判員候補者名簿が作成されることになります。事件ごとに名簿の中から抽選でその事件の裁判員候補者が選ばれ、その候補者から裁判員が選任されることになり、裁判員に選任されると原則として辞退はできないということです。

選ばれると重い役目を背負うことになりますが不安や苦痛に感じることはないでしょうか?「法律に関する知識」や「刑事裁判に関する知識」が無くても大丈夫だろうか、裁判官によって丁寧な説明がなされるというがそれでも裁判員が務まるのか、いろいろ不安が付きまといます。しかし、やはり一番気になるのが裁判員になったことでトラブルに巻き込まれることはないかということだと思います。裁判員や裁判員の親族に対して安全は確保されるというが本当に心配は皆無なのか?また、裁判員になるために会社を休むことができるのか、裁判は長期にわたるのではないか、また休むことができても会社から不利益を被ることは無いのか、考えると切が無く不安や心配ごとは尽きることはありません。たとえ、前述の不安や心配ごとが払拭されても、ひとりの人間として「人」を裁くことができるのか、被告人が「有罪」か「無罪」か、判断

に苦しんでも冷静に自分の正義に基づき決断できるのか、しかも重刑に値すると判断しても迷うことなく決断し表明できるか、悩むにちがいありません。しかし、あと四年足らずでこの制度はスタートします。

ちなみに、裁判員制度の対象となる事件は2003年度では3,089件、選挙権を有する者が1億223万人です。これらの数字を基礎にして試算すると、一事件につき裁判員候補者として50ないし100人選ばれるとすると、一年間で有権者330人から660人に一人が裁判員候補者となり、最終的に有権者5,500から8,300人に一人が裁判員になります。この数字は宝くじの高額賞金に当選するよりもはるかに高い数字です。皆さんも裁判員に選ばれる可能性は十分です。

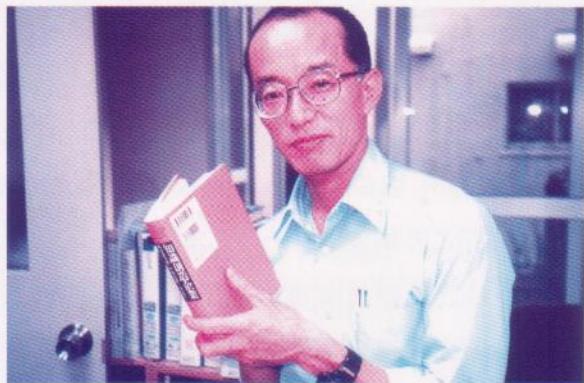
NPO 高知県生涯学習支援センターでは「裁判員制度についての勉強会」の計画が進行中です。裁判官、弁護士などの法曹界の方から「制定された裁判員制度」の解説を願い、さらに、大学の専門家などの有識者を講師に招き、学習をしようではありませんか、合わせて私たち市民の意見交換もあっていいのではないでしょうか、また刑事裁判を傍聴し実際の裁判を体験するのも一考だと思う次第です。



第2回

エッセー

「私の生涯学習」



前高知県職員能力開発センター所長
夕部 雅丈

勉強嫌いだった私の生涯学習は、高校2年の夏の出来事を転機に、生涯学生という形ではじまった。そして50歳を過ぎ工学博士を取得することができた。56歳の今も学生気分で学習にいそしんでいる。

小学でも九九の読み上げがクラスの最後の方だった私が、完全に落ちこぼれたのは中学生になって英語に躊躇いたからだった。塾の先生にTの発音を「ティ」とやったら「ティ」であると矯正されたが、舌の使い方も教えてくれず直らなかった。友達からは笑われ傷ついた。そこから「日本人が何故英語の勉強をしなければならないか」と屁理屈をつけ勉強嫌いになってしまった。

中学卒業を前に就職試験を受けたが採用されず、親が願書を出していた実業高校に入ったものの勉強する気はなかった。高校2年の夏家出のような形でダンボール工場を営む大阪の親戚の家に転がり込んだ。そこに昼間は懸命に働き、夜は定時制高校に通い、深夜二時、三時まで勉強する同年の人たちがいた。その中のひとりが、こっそり夜間高校の教室にもぐりこませてくれた。彼ら3人ともそれぞれ土木、建築、機械の各科でトップの成績。芸能界入りを夢見ていた私とは違い、人生設計もしっかりしていた。先生に見つかり教室から摘み出されたが、この事件が私の人生の大きな転機、すなわち生涯学習・生涯学生の人生を歩むこととなったのである。

高校に復学し、卒業後は大阪府庁に勤務。一

年間、中学校の教科書から読み直し、大阪工業大学の夜間課程に進んだ。大学を卒業して高知県庁に転職、職務柄、法律の知識が必要となり、今度は中央大学の通信教育で法律の勉強を始めた。高知大学に地学の社会人修士コースができたと岡村眞教授から案内をいただき、修了すると今度は愛媛大学から社会人博士課程の案内があり、50歳を過ぎてからであったが無事博士号を取得できた。

振り返ってみると、夜間課程は体力、通信は精神力、大学院は情報ネットが不可欠である事も知った。また、挫折しそうになったとき元気回復剤は、同じ学ぶ仲間であった。

私の勉学のエネルギーは好奇心と負けん気かも知れない。足跡は残せないまでも、折角この世に命を受けたのだから、せめて壁に爪痕でも残して死にたいと思っている。それと何時どんなことで死ぬようなことがあっても、自分の人生はよかったと思える生き方、悔いのない生き方をしてみたい、いつも思っている。トイレや乗り物の中は本を読む貴重な時間である。本が読めない場合は考えることができる。空き時間を利用するのが私の流儀だ。要は、学ぶことを習慣とすること、その姿勢さえ忘れなければいい。海馬という脳は24時間働いてくれているらしいから、なにかを意識していることが大切だとつくづく思う。記憶の衰えなど気にすることはない。90歳を過ぎても日野原さんやドラッカーのように、矍鑠として本を書いている人もいるのだから。

はじめから目的や目標があればいいのだが、なくてもいい。自分の好きなこと、興味のあることをしていたら、その中から自然と生涯研究してみたい、学習してみたいテーマは見つかるものである。生きていることのワクワク感、知りたいと思う心さえあればいい。その根底にある気持ちが、きっと人生を豊にしてくれるはずだから。

ひょっと学ぶことを忘れかけている皆さん、学ぶのは学校時代の事と思っている皆さん、今からでも遅くありません。知的満足を味わう旅に出発してみませんか?きっと自分の世界がひろがり、実り多い心豊かな人生が味わえますよ。

報告 家庭教育アニメータ月例会

テーマ:「新聞記者の見た高知県の教育」

須崎市で30名以上が参加(6月18日)



日須崎ビジネス専門学校で開催されました。

土曜日の午後でしたが、教育に関心を寄せる方が30名以上集まってくれました。小中学校へ通う子どものお母さんやおばあちゃん、地域の家庭教育センター、保育園の保母さん、それに地元小学校の先生も加わって、講演の後の討論会も含め終始非常な盛り上がりを見せました。

石川さんの演題は「新聞記者の見た高知県の教育」。講演の導入に、若者の最近使う言葉「コクラレタガッテ、イタデン、イタメル、イエデン、イミフ」などを挙げて参加者に問い合わせ、会場の雰囲気をリラックスさせました。

その後、「どんな先生が好きでどんな先生が嫌いか」について、小中学生を対象に行ったアンケートの結果を紹介しました。好きな先生は、「話を最後まで聞いてくれる先生」、「最後まで面倒を見てくれる先生」。嫌いな先生は、「顔を向けると目線をそらす先生」、「見て見ぬ振りをする先生」だそうです。

お知らせ 家庭教育アニメータの集い

「教育改革で想うこと」

講師:野口 順二
(前 文教協会理事長)

「反抗期をどのように克服するか」

問題提起:廣瀬 典民
(限 セルボーン高等外語学校校長)

午後1時30分より2時20分まで、野口順二先生による講演会の後、午後2時30分より3時30分まで、「反抗期をどのように克服するか」について廣瀬典民先生を問題提起者とし、参加していただいた皆様と協議したいと思います。

日 時:平成17年8月17日(水)

講 演:午後1時30分~2時20分まで

協 講:午後2時30分~3時30分まで

場 所:高知県立高知北高等学校
ブルー棟一階会議室
(高知市東石立町160番地)

参加費:無料

申込み:事前申し込みが必要です。

NPO 高知県生涯学習センターで
電話・FAX・電子メールにて受け
付けています。



講演後の約一時間は、自己紹介と石川さんへの質疑応答。長年、高知県の教育現場を見てきた石川さんに色々な質問や意見が活発に出されました。

質疑応答の中で、佐川町では家庭教育センターの支援が充実し、市民も一丸となって子どもの日々の行動に気をつけて接していること。中土佐町では、使わなくなった教室を空けて、父兄が自由に入り出来る空間をつくってサポートする体制になっているなどの報告がありました。

その後、開かれた学校や、ゆとり教育に関する質問などもあって2時間は“アッ”という間に過ぎました。

こうして第一回の“集い”は、参加者の積極的な発言もあり、「いい会だったわ、また話しませうね」と言い合いながら成功裏に散会しました。講師の石川さんも、帰りの車中で、『短時間ながら沢山の意見が出て、大変良い会でした』と大満足のご様子でした。

昨年4月から始まった生涯学習支援センター主催の家庭教育アニメーター月例会の中で、今年度は県委嘱の家庭教育センター中心の会だけでなく、年4回は広く地域の人々に呼びかけ仲間の輪を広げようと“集い”を計画。今回の須崎市の会合を皮切りに高知市で2回と安芸市で1回開催する計画です。

皆様方の協力と参加をお待ちしています。



龍馬の手紙を読もう!!

—古文書解読の基礎—

歴史文化に恵まれた土佐には多くの古文書や石碑があります。「これらを読めたらいいな…」と思ったことはありませんか。

岡村庄造先生(日本石仏協会理事、土佐史談会理事)の指導の下に、古文書解読の基礎勉強会が、当センターなどの主催で定期的に開催されています。

変体仮名、候文、散らし書き仮名などを、初步から学習した後、自由闊達な筆致の龍馬の手紙や「功名ヶ辻」でおなじみの山内一豊の妻・見性院千代女関係の優雅な書簡などの解説に挑戦していきます。

第1回目は5月21日午前10時より喫茶「さいたにや」(高知市上町2丁目)で15名が参加。

第2回は7月2日に「龍馬の生まれたまち記念館」で10名が参加。龍馬の有名な「日本をせんたく」や「ねぶともはれづば」の文字に直接ふれ「謎解きをするみたいに楽しい」と大好評でした。

第3回目は、「異体字・用字・用語などの使用例」を中心に行います。お友達をお誘い合わせの上、ご参加ください。



日 時: 平成17年9月24日(土)
午前10時より
場 所: 龍馬の生まれたまち記念館
〒780-0901
高知県高知市上町2丁目6-33
講 師: 岡村庄造先生
講 義: 古文書の豆知識
受講料: 各回1,000円(テキスト資料代含む)
申込み: 電話・FAXにて
NPO高知県生涯学習センターで受け付けています。

お知らせ 家庭教育アニメータ月例会

家庭教育アニメーターは、家庭教育にご興味のある方やお悩みを抱えている方でしたらどなたでも参加できる会です。問題提起者を中心とした1時間半の協議の後、参加されている家庭教育センターの方が、一般の方からの個人的な相談を受付けています。教育についてのご相談のある家庭の方々にはぜひ参加して頂きたいと思います。

第3回目は問題提起者として土佐教育研究所の所長として活躍しています傍士雅子先生をお迎えして下記の要領で、不登校・登校拒否について話し合います。ぜひお友達をお誘い合わせの上ご参加ください。

家庭教育アニメーター 7月月例会

テーマ: ゆとり教育と学力問題

問題提起者: 傍士雅子先生(土佐教育研究所・所長)

日 時: 平成17年7月20日(水)
協 議: 午後1時30分~3時まで
相談会: 午後3時~3時30分まで
場 所: 高知市大原町132番地
教育センター分館 北棟 2階
第4研修室

参加費: 無料
申込み: 事前申し込みが必要です。
NPO高知県生涯学習センター
で電話・FAXにて受け付けています。

夏休み特別企画

ちびっこしばてんカレッジ

桂浜水族館のピヨちゃんと 自由研究教室

夏休みの自由研究に、桂浜水族館で生まれて人工飼育で育ったペンギンのピヨちゃんと一緒に海の仲間のことを勉強してみませんか?

本や図鑑では教えてくれない「飼育員さんならではのお話」が聞ける自由研究教室を開きます。ペンギンとのふれあい体験、イルカショー、アシカショー、水族館の新しい仲間の紹介もあります。また、飼育員さんによる館内案内や、日頃見ることの出来ない水族館の裏側の見学もいたします。

対象: 小学生児童と保護者

日 時: 平成17年8月22日(月) 小学1~3年生

平成17年8月23日(火) 小学4~6年生

午前10:00~午後14:00

※時化の時や台風などの場合は中止する場合がありますので、
予め NPO高知県生涯学習支援センターにお問い合わせ下さい。

定員: 各日10組 定員になり次第締め切ります。

集合場所: 桂浜水族館前(現地集合)

参加費: 100円(テキスト・記念品込み)

※桂浜水族館の入場料が別途にかかります。

大人 1,100円 小学生 500円



プリザーブドフラワーを使って自由工作を作ろう。

プリザーブドフラワーはフランスで1990年代に開発された生花とも造花とも違う全く新しいお花です。本物のお花をもっと美しい時期に収穫して、植物の樹液を人体や環境に無害なオーガニック(有機物)におきかえることによっていつまでもみずみずしい美しさを保つようにしています。

対象: 小学生児童と保護者

日 時: 平成17年8月24日(水)・26日(金)

●午前クラス: 10時~12時

●午後クラス: 14時~16時

※各ども、午前クラスは「小物入れ」、

午後クラスは「フォトスタンド」を作成します。

定員: 各クラス5組 定員になり次第締め切ります。

場所: NPO高知県生涯学習支援センター

高知市大原町132番地

教育センター分館 南棟2階

参加費: 無料(別途材料費として3,000円)

申込み: NPO高知県生涯学習センターで電話・FAXにて受け付けています。



発行 2005年7月11日

NPO高知県生涯学習支援センター(KOLEC)

〒780-8031

高知市大原町132番地(教育センター分館内)

電話 088-833-0022 FAX 088-833-0023

KOLEC電話路線相談の電話 088-833-0086

電子メール info@kolec.jp

URL http://www.kolec.jp

発行人 理事長 山本晉平

編集 NPO KOLEC編集室/印刷 中島出版印刷

